

令和3年度第1回自転車の活用推進に向けた有識者会議

令和2年度第6回における各委員からのご意見



令和2年度第6回における各委員からのご意見



委員からの主なご意見

○措置等について

全般

- ✓ 全般的に、「検討する」となっている表現が多く、より前向きに記載しなくてはならない。

「都市環境」について

- ✓ 自転車通行空間整備に取り組む意義は、自転車ネットワークの整備に留まらず、道路空間の再配分にある旨について、計画に記載すべき。

「安全・安心」について

- ✓ 施策「学校における交通安全教室の開催等の推進」の施策名について、未就学児や保護者を含めるよう、「学校」の後に「等」を入れていただきたい。
- ✓ フードデリバリーの配達員の配達中における自転車事故については、(業務目的であるため)個人賠償責任保険が対象外となるが、保険の約款を見ても分かりにくいいため、事業者、配達員に対する情報発信が必要。
- ✓ 保険の加入促進にあたり、保険商品の価格と補償の厚みのバランスを考慮することが必要。

「健康」について

- ✓ 自転車利用による健康増進効果について、自転車に特化したエビデンスの採取は困難と思われる。既存の調査で言えることを整理すべきではないか。
- ✓ 措置の文言について、現計画の「(健康増進や医療費等への影響の)科学的知見の収集」から次期計画の「医学的知見の収集」へと取組の範囲が狭まるように見えるので、表現を再考すべき。
- ✓ 首長により自転車活用の温度差が大きい。まちづくりの観点から戦略的な広報が必要。
- ✓ コロナ禍での自転車通勤の増加状況や企業等の規定の変化等もフォローすべき。
- ✓ 「健康」の目標に位置付けられた施策・措置は、「環境」にも密接であるため、両者が連携した形で間口を広げた記載ぶりとしてはどうか。

「観光」について

- ✓ (しまなみ等が行っている)世界市場の呼び込みは、今後の展開において非常に大事。
- ✓ 各サイクルルートのストーリー性や個性を磨き上げることで、情報発信をしやすくすることが大事。役所内の役割分担も整理し、段階を追って措置を記載すべき。
- ✓ ナショナルサイクルルート制度によりルートの品質保証・品質管理を行うことが重要。
- ✓ 観光でのレンタサイクル・シェアサイクル活用を、貸出拠点の情報発信も含め推進すべき。
- ✓ 「サイクリングロード」と「サイクルルート」の言葉の使い分けを整理すべき。
- ✓ 森林でのマウンテンバイクの活用は、初心者は安全上のリスクもありルール整備も必要。
- ✓ サイクリングロード自体だけではなく、そこに至るまでのアクセスルートの整備も必要。
- ✓ サイクルツーリズムの推進では、自転車の盗難防止など防犯対策も考慮に入れるべき。
- ✓ 失敗事例も含め、自転車の観光への活用事例を横展開すべき。
- ✓ 措置の「(サイクリングロードの安全性等の確保のための)横断的協議機関の設置の促進」は、現計画から落とさずに残すべき。

○指標について

※事務局提示の指標案について了承。補足意見として以下。

- ✓ 大きな4つの柱である「目標」と、各指標の「数値目標」とで言葉の混同があり、指標のモニタリングさえすれば良いかのような印象を与えかねない。言葉の整理が必要。
- ✓ 全ての施策に指標がある訳ではないのは理解するが、パブコメ等にあたり、指標が無い施策についてはその理由について整理が必要。
- ✓ 指標とすべき趣旨ではないが、モデルルートについては利用者数の把握も重要。